

長期策 と 短期策

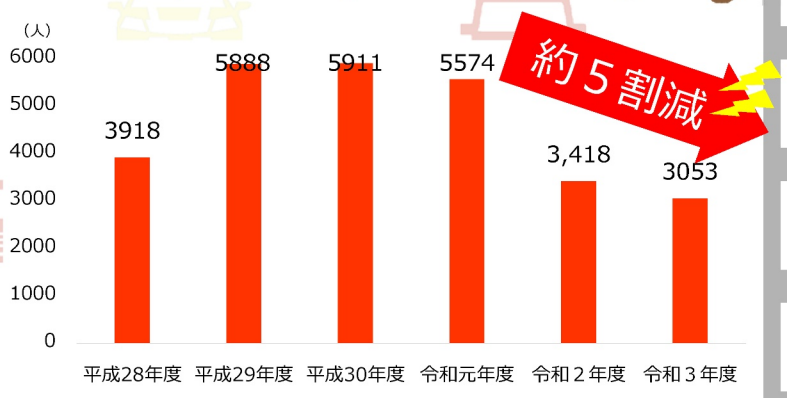
の 二刀流

コミュニティバスの存続をかけた、かわきたバス 大改革

竹田 佳子
豊橋市 (愛知県豊橋市 都市交通課)

01 背景・目的

コミュニティバス「かわきたバス」は、運行開始から6年経つものの、なかなか地元に着定せず利用が伸び悩んでいた。加えて、新型コロナウイルスの影響もあり、利用は一時5割近くまで落ち込んだ。運行継続の基準を満たさなければ存続の危機という状況の中、**現利用者の利便性向上**はもちろん、**新規利用者の獲得**も目指し、地元住民から成るかわきたバス運営委員会、交通事業者、市の三者一同奮起したのが大改革の発端である。



02 プロジェクトの内容

長期策

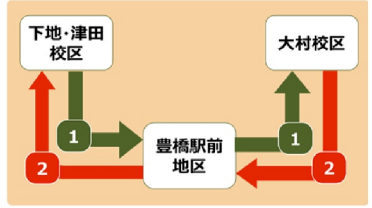


PLAN 1 バスルートのリニューアル

かわきたバス運営委員会、交通事業者、豊橋市の三者が集まり、「利用者の目的地はどこか」「バス停名は適切か」など1年で17回話し合いを重ねた。また、現利用者への車内アンケート、利用が少ない地区へのアンケート、そして利用が見込める地区へのアンケートの3種類を実施。具体的な目的地や普段の外出時間帯など生の声をルート変更にかした。

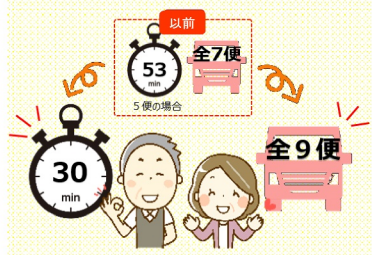
変更ポイント① ルートがわかりやすい！

リニューアル前に6系統あった複雑なルートを、2系統に簡素化した。



変更ポイント② 乗車時間が短い！

乗車時間の短縮により、全体の増便に成功した。



変更ポイント③ 目的地が充実！

通院、買い物等に便利な目的地を追加し、サービス水準の向上へつなげた。



短期策

PLAN 1 多種多様な利用促進策

牛川の渡しツアーの実施(7~8月)

かわきたバスで巡りながら、沿線近くの牛川の渡しに乗船したり、停留所付近の店舗のランチを食べたりして地域の魅力を発見するツアーを実施した。6日間で36名が参加▶



地元主体で、切れ目なく策を練りました！

通算利用者3万人達成記念企画の実施(9~10月)



利用者3万人目とその前後に乗車した方へ、沿線にある大学の学生が制作した皿などの記念品を贈呈した。
▶表彰式は、みんなで祝い

回数券の割引販売(10月)

コロナの影響による利用者の減少に対応するため、2,000円と2,500円の回数券をそれぞれ500円割引で販売し、かわきたバス運営委員会が500円分を負担した。



▲周知用に車内動画を制作

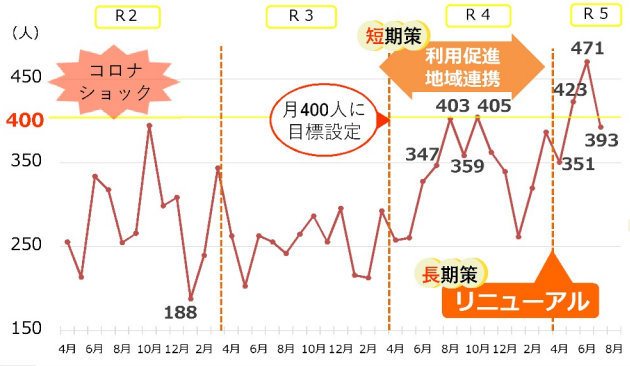
PLAN 2 地域と連携した取り組み

沿線にある大学の学生とかわきたバス運営委員会が交流しながら、キーホルダーやすごろくを作成。すごろくは、沿線地域の魅力が詰まっており、今後のイベント等で活用予定である。また、時刻表を置いていただける沿線店舗をバスニュースで紹介する「協力店舗制度」を設け、22店舗に登録いただいた。



学生との交流(右)とキーホルダー(左)▶

03 効果



令和5年4月にルートをリニューアルしてから、利用者数は概ね右肩上がり伸びている。長期・短期と策を並行して講じることで、総合的な完成度が高まったと言える。

04 結論

数値的な結果は元より、かわきたバス運営委員会の意識醸成を図れたことは非常に大きな実りと言える。危機感を共有したことで、会議を重ねるごとに当事者意識で捉える委員が増え、意見も活発になった印象がある。また、広報係やイベント係など役割を設けて取り組む姿や、自発的に委員残留を申し出る姿から、委員会の熟度も増していると感じる。さらに、三者が本音で話せる関係になっていること、こうした姿勢が他地区の模範となるものになったことも、今回の大きな成果である。